

その1 オリジナル議題をつくろう

→「この学級でないとできない議題」「話し合うことがはっきりとした議題」をつくりましょう。

例えば、「わくわく集会をしよう」よりも、「〇年〇組だけのわくわく集会をしよう」というように、議題に自分たちの学級の名前を入れるだけで、子どもたちの目の輝きが変わってきます。また、「サッカー大会をしよう」よりも、「女子がしっかり活躍できるサッカー大会をしよう」などのように、その集会の条件を限定するのも一つの方法です。

その2 計画書を活用しよう

→集会やイベントの話合いのときは、事前に集会やイベントの計画書を作成しますね。それを活用して世論を高めていくのです。

例えば、計画書を事前に学級会コーナーに掲示しておきます。そして、気づいたことがあれば、付箋紙などを使って意見を書かせておくとよいですね。

=====
(6) 学級目標を意識させるアイディア
=====

学級目標は、自分たちの学級づくりの目標です。ですから、話合いの際の意見を決定する基準になるのです。そこで、普段から子どもたちが学級目標を意識できるように仕掛けていくことが大切です。ここでは、2つの視点からの支援を紹介します。

その1 学級目標をみんなで作ろう

その2 学級目標を動かそう

それぞれについて紹介します。

その1 学級目標をみんなで作ろう

→先に述べたように、学級目標は子どもたち（学級）のめざすゴールです。そこで、「自分たちで作った学級目標」という意識を持たせましょう。そのためには、教師の願いを生かしつつ、子どもたちの思いを大事にした学級目標をつくるのが大切です。

学級目標はオリジナリティあふれた表現がいいです。「いつも元気な子・友だちに優しい子…」というような子ども像型の学級目標ではなく、スローガン型（ファイト一発！6年2組）やイメージ型（笑顔あふれる太陽学級）や語呂合わせ型（「た」のしく、「ぬ」くもりと、「き」びしさのある学級）などをめざしてほしいものです。ここでは、子どもたちの意見をしっかりくみ取って考えていくことを大事にします。そのようにして、子どもたちに学級目標を意識させるには、

「自分たちでつくった」という活動経験が必要なのです。自分たちでつくったものだからこそ、価値があるのです。

その2 学級目標を動かそう

→4月に作った学級目標が、黒板の上の飾りになっていませんか？ そうならないうようにしたいものです。

例えば、「学級通信のタイトルを学級目標にする」「よさを見つける視点を学級目標にする」「学級目標を形にする」などに取り組んでみましょう。

* 「学級通信のタイトルを学級目標にする」

…学級通信は、子どもたちや保護者の目にもっともよく触れるものです。

そこで、そのタイトルを学級目標にしてしまうのです。いつでも目に付きますので、子どもたちもしっかり覚えてくれます。

* 「よさを見つける視点を学級目標にする」

…例えば帰りの会で「よいこと見つけ」をするとしましょう。子どもたちはどういう視点で「よいこと」を見つめますか？ たぶん、自分自身が友だちから何かしてもらったことが一番多いのではないのでしょうか？

そこで、その視点を少しずつ学級目標にしていくのです。そのためには、子どもたちが見つけた「よさ」を学級目標に価値づけてあげることが大切です。

「今日は〇〇ちゃんが消しゴムを貸してくれました」

「それは、この学級目標の『やさしい友だち』のことになるみたいだね」

* 「学級目標を形にする」

…言葉だけの学級目標を、さらに子どもたちの中に落としていくには、学級目標を形にしていくことが大切です。

例えば、学級のシンボルマークをつくったり、それをもとに学級旗をつくったりします。学級旗は、上げ下ろしができるようにしてもいいですね。また、学級のマスコットを考えたり、学級の歌を作ったりしてもいいでしょう。

6つのアイデアを紹介しました。いかがでしたでしょうか。

2 投稿～「子どもってすごいな」という感動の一コマ

佐賀市立春日北小学校 西川 記世

「子どもってすごいな」という感動の一コマを紹介します。

実は、特別活動と言っているのどうか迷っていますが、「音楽会」での出来事でした。

佐賀市内の小学校は市町村合併でたくさん増えたので、9時から16時まで、3部に分けて行われました。「第50回連合音楽会」というイベントです。

佐賀市文化会館の大ホールで（1600人くらい収容とか）行われ、うちの学年の4年生が学校代表で参加してきました。

そのステージに立つために、うちの春日北小学校では、3年生の時から「どんな歌を歌いたい？」など音楽専科の先生が子ども達に日頃の授業を通して指導を計画的にされて、ピアノ伴奏をしてくださいます。指揮だけは学級担任の誰かがするというシステムです。

それで「まあるいいのち」（イルカ作詞作曲）「ベストフレンド」（キロロの歌）の2曲を斉唱で歌うことになり、本格的な練習が10月下旬から始まり、体育館のステージで行ってきました。

途中、全校集会の音楽集会で発表する機会もありましたが、なかなか集中して歌を歌ってくれない児童が数人いました。

個人的に注意することもしましたが、集会のときですら、歌声は全員が集中するまでに至らず、不安を残したまま、12日本番を迎えました。しかし、本番当日の朝、学校で伴奏無しで練習を1回したところ、いつもの声よりも明るくピンとハリのある大きな声が出ていてびっくり。ついに、本番のステージでもそのまま全員がなんとか集中して指揮をしっかりと見ながら歌っている姿がありました。

ビデオで撮影し、全校放送も給食時間に放映しましたが、確かに声が響いていました。

帰り際の会場で「人数のわりに、1番大きな声で迫力ありましたよ」

と他校の先生方から声を掛けていただきました。目指す子どもの姿が実現できたと思いました。

本気で歌う姿。

これもまた集団活動の1つではないでしょうか？

作文に子どもはこう書いていました。

「緊張もしたけれど、歌が響いているのが分かってとても気持ちよかった」

「指揮をしっかりと見ていたら、普段どおりに歌えた」

「隣の〇〇さんがとても大きな声で歌っていたので、自分も声を出した」

こんな所に成功の秘訣があったと思いました。

いつもは集中できなかつた子どもも、本気にやっとなつてくれたこともよかったです。さすがに、スポットライトをたくさん浴びて舞台に立つと、気合いが入るはず。しかし、それに臆せず力をどれだけ出せるか、やはり日頃の練習が生きてくるようでした。

以上、「子どもってすごいな」、本気の底地からを見せつけられたという話でした。

3 第8回山口学級活動ネットワーク冬の学習会ならびに第11回特別活動「希望の会」学習会のお知らせ

1 2月に入り，ますます寒さが厳しくなってきました。山口でも先日は雪が降りました。本年度も，山口学級活動ネットワーク恒例の学習会を行います。このたびは，特別活動「希望の会」とのコラボということで，行います。
第一次案内ということでお知らせしますので，ぜひ，この日を空けておいてください。

期日：平成21年1月11日（日）

会場：山口県教育研修所 セミナーパーク

内容（予定）

1 役立ち実践コーナー

…3人の実践家のみなさんに，新指導要領にそった実践を提案してもらいます。
一人30分程度。ネットワークが大事にしてきた「持ち込み実践コーナー」です。

2 楽しい学校づくり

…校長先生が特活を使って学校づくりをするとこんなに楽しい学校ができますよ！という実践をお話ししてもらおうと思っています。講師は，北九州市立小石小学校の大庭校長先生にお願いしています。

【昼食】

3 ワークショップ～新学習指導要領での課題を考える

…参加者といっしょに新学習指導要領における特別活動の実践課題について考えてみようというコーナーです。この課題については，当日までのお楽しみ。
話し合いによる課題解決を体験してみましょう。

4 講演…杉田調査官による講演

…ワークショップで出されたことを受けて，文部科学省の杉田調査官に「特別活動実践上の課題」を語ってもらうことにしています。

調査官は，当日，山口入りされます。その日の夜の懇親会には参加されますので，みなさん，夜まで残ってください。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第69号は12月下旬ごろ発行予定です。

次号も、「夏の研修会より」というテーマでまとめますが、今度は鳥取でお話をしたことを紹介します。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は242名です。これまで以上に内容を充実させていく必要を感じています。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っています。お知り合いの方にこのメルマガを紹介してください。登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆内容の充実について◆◇◆

このメールマガジンでは、読者のみなさんのニーズに応える紙面作りに取り組んでいこうと思っています。こんな内容について書いて欲しい。こういう情報が欲しい、ということをお知らせください。

sugi-net@c-able.ne.jp

本年度中に特別活動の年間計画をつくる必要があります。そのあたりについても可能な限り書いていこうと思います。

◆実践投稿のお願い◆◇◆

今回、佐賀の西川先生からの投稿を紹介させていただきました。読者のみなさん、みなさんが取り組まれている情報を送ってください。学級づくりの実践を広げ、共有していきましょう。

みなさんも、ぜひ以下のアドレスまでよろしくお願いします。

sugi-net@c-able.ne.jp

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（美祿市立伊佐小）

吉田哲朗（山口大学教育学部附属山口小）

=====